

令和7年度(2025年度)全国学力・学習状況調査

実施日:令和7年(2025年)4月17日

## 宝塚市の結果(概要)

自分を大切に 人を大切に  
ふるさと宝塚を大切にする人づくり

宝塚市教育委員会

令和7年(2025年)12月

本冊子は令和7年度全国学力・学習状況調査の結果概要を多くの方々にご覧いただき、今後の宝塚の教育をより良くしていくために活かしていくことを目的として作成しました。

## もくじ

1. 調査の目的	2
2. 調査の概要	2
3. 宝塚市の状況	2
4. 教科に関する調査結果より	
小学校国語	3, 4
小学校算数	5, 6
小学校理科	7, 8
中学校国語	9, 10
中学校数学	11, 12
中学校理科	13
5. 児童生徒質問調査結果より	14, 15
6. 宝塚市の児童生徒の学習と生活の充実のために	16

## 1. 調査の目的

この調査は、文部科学省が次の3点を目的として実施した。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

全国学力・学習状況調査は全ての学力を測るものではないが、調査で得られた結果から、教育行政及び学校現場が、今までの取組の成果と課題を把握し分析することで、今後の取組に活かす。

## 2. 調査の概要

- (1) 調査対象 小学校6年生 (23校 1,909人) 中学校3年生 (12校 1,593人)
- (2) 調査内容 ア 教科調査 小学校：国語、算数、理科  
中学校：国語、数学、理科 (CBT)
- イ 質問調査 児童生徒用 (オンラインで実施)、学校用

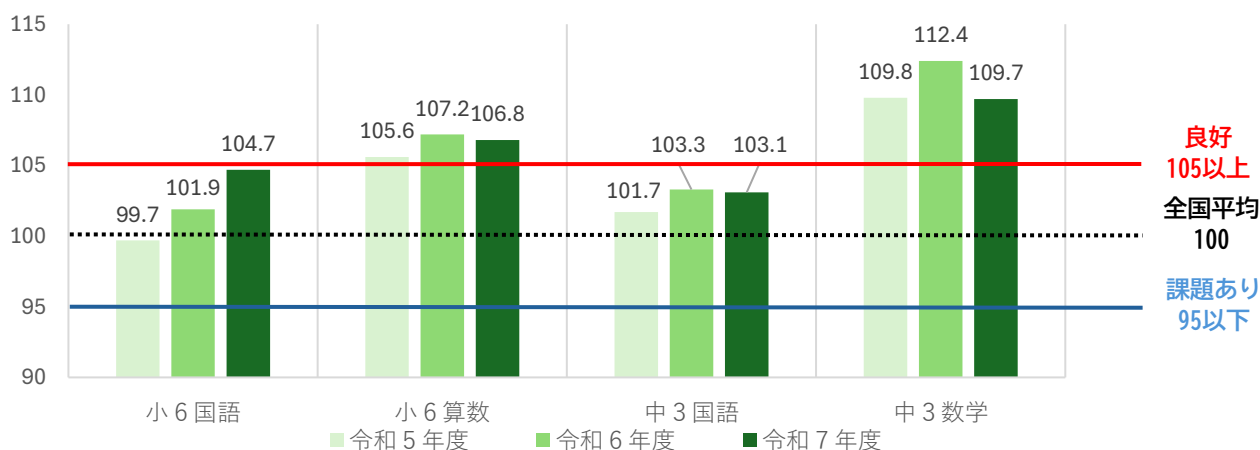
## 3. 宝塚市の状況

- (1) 教科に関する調査結果

学年	教科	令和7年度 平均正答率 (%)			【参考】令和6年度 平均正答率 (%)		
		宝塚市	兵庫県	全国	宝塚市	兵庫県	全国
小学校 6年生	国語	70.0	68.0	66.8	69.0	68.0	67.7
	算数	62.0	59.0	58.0	68.0	65.0	63.4
	理科	59.0	57.0	57.1	—	—	—
中学校 3年生	国語	56.0	54.0	54.3	60.0	58.0	58.1
	数学	53.0	49.0	48.3	59.0	55.0	52.5
	理科	51.7	50.5	50.3	—	—	—

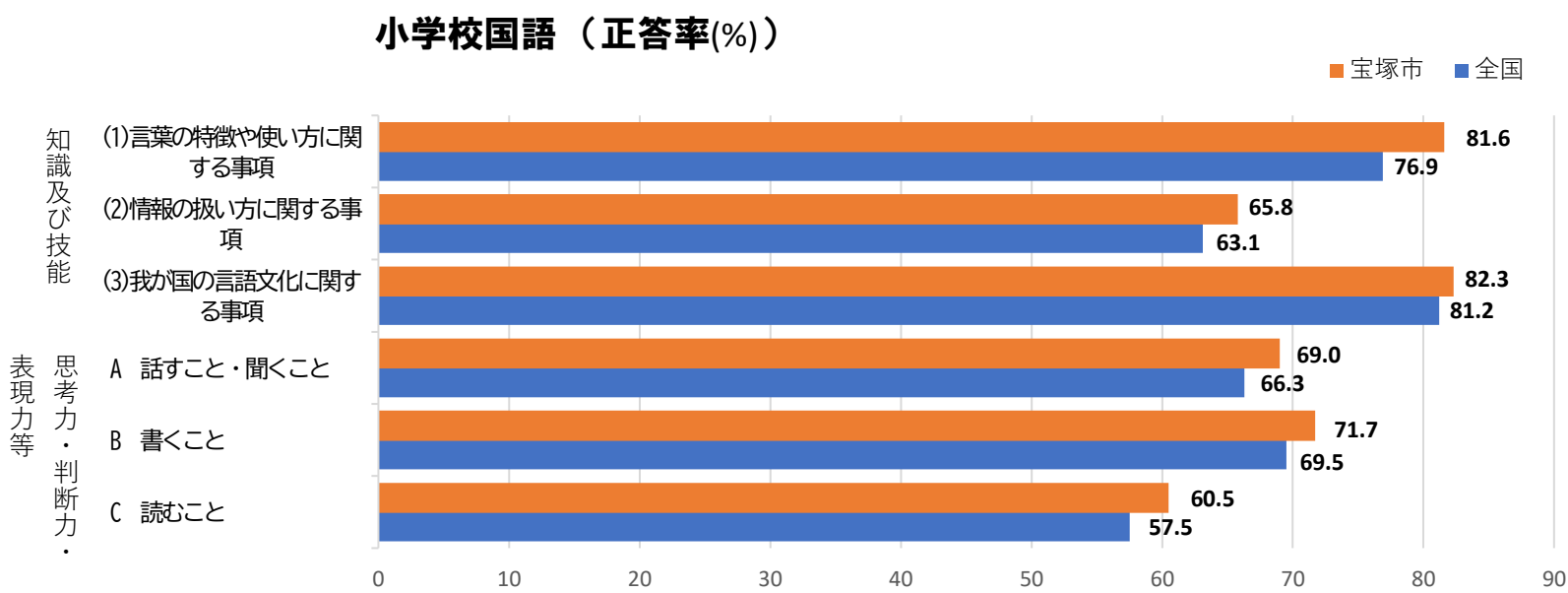
※R7年度より中学理科についてはIRT（項目反応理論）スコアで表記

- (2) 過去3年間ににおける宝塚市の平均正答率



4-1 教科に関する調査結果より（小学校国語）

(1) 教科の調査結果に関する学習指導要領の内容別正答率（％）



(2) 国語の児童質問調査結果に関する興味・関心や授業の理解度（％）

質問項目	小学6年生	
	宝塚市	全国
国語の勉強は得意ですか	60.3	61.4
国語の勉強は好きですか	56.6	58.3
国語の授業の内容はよく分かりますか	85.7	82.8
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.5	90.4
国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか	75.1	78.2
国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか	67.8	75.5
国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか	80.3	81.8
国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか	76.7	79.1

(3) 考察

ア 傾向

- 教科の調査結果に関すること
  - ・教科の調査結果の正答率は、学習指導要領の全内容で全国平均を上回った。
  - ・特に、「言葉の特徴や使い方」に関する事項で全国平均を大きく上回った。
  - ・「情報の扱い方に関する項目」や、「思考力・判断力・表現力等の読むこと」は他よりやや低め。
- 児童質問調査結果に関すること
  - ・授業内容の理解度や将来役立つと感じている割合は高い。
  - ・国語が得意、好きと感じる割合はやや低め（全国平均と同程度）。
  - ・先生から成長や課題を伝えられる割合はやや低め（全国平均と同程度）。

イ 方向性

小学校国語では、全体として全国平均を上回る成果を挙げており、特に「言葉の特徴や使い方」に関しては優れた結果となっている。記述式問題の成績も改善が見られる。

一方、「思考力・判断力・表現力等」を問う問題や、「情報の使い方」「読むこと」に課題が残る。また、児童質問調査の結果より、自己肯定感や課題意識の向上、表現力や情報活用力のさらなる育成が課題である。

今後は、学習指導要領に基づき、知識の活用や多面的に考える力、情報を整理し活用する力、文章内容を深く読み取る力を育てる授業づくりが必要である。また、児童が自ら考え、表現する活動を一層充実させ、思考力や判断力を高める学びを推進していくことが求められる。

【ピックアップ問題】 ※ここでは教科の調査結果において、正答率が低かった問題（全国比で高い場合もある）を取り上げる。

小学校国語においては、「思考力・判断力・表現力等」に関する「C 読むこと」を問う問題を取り上げた。該当問題の正答率は46.4%であり、唯一50%を下回る結果となった。

4  
【資料1】の部④

3  
【資料1】の部③

2  
【資料1】の部②

1  
【資料1】の部①

(1) 【話し合いの様子】のAに当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

言葉の変化については、いろいろな考え方があるんだね。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番納得したことをまとめよう。

私は、この資料（【資料4】）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいがあることが分かるでしょ。

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう、小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と書かれているとおりだと思うよ。

三木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子】  
ぼくが読んだ二つの資料（【資料2】、【資料3】）には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

「雨模様」の意味のとらえ方  
(%)  
50.4 43.5 53.7 53.9 61.2 52.6 46.2  
31.9 42.9 34.1 33.4 26.1 33.6 39.8  
16-19さい 20代 30代 40代 50代 60代 70さい以上  
▲ 雨が降りそうな様子 ▼ 小雨が降ったりやんだりしている様子  
(文化庁「令和4年度国語に関する世論調査」による。)

設問三(1)  
趣旨

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。

学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
3三(1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	4.4	28.2	46.4	15.5					0.3	5.2
		5.1	32.3	41.4	16.6					0.3	4.3
		5.2	33.9	40.8	16.4					0.2	3.4

市  
県  
国

○解答類型2は、田中さんが、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「『本来の意味』『本来とは違う使い方』といった言い方にとめています。」と書かれていることを結び付けていると捉えており、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることを結び付けていると捉えることができなかったと考えられる。この中には、「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを「本来の意味」「本来とは違う使い方」であると考え、複数の資料を結び付けようとしたが、必要な情報を整理できなかった児童がいたと考えられる。

○解答類型4は、田中さんが、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「『言葉は生きている』とも言われます。」と書かれていることを結び付けていると捉えており、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることを結び付けていると捉えることができなかったと考えられる。この中には、「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを「言葉の変化」と捉えて、「言葉は生きている」と関係があると考え、資料の内容の大体は捉えていたが、【話し合いの様子】の流れを捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

詳細へのリンク・2次元コード

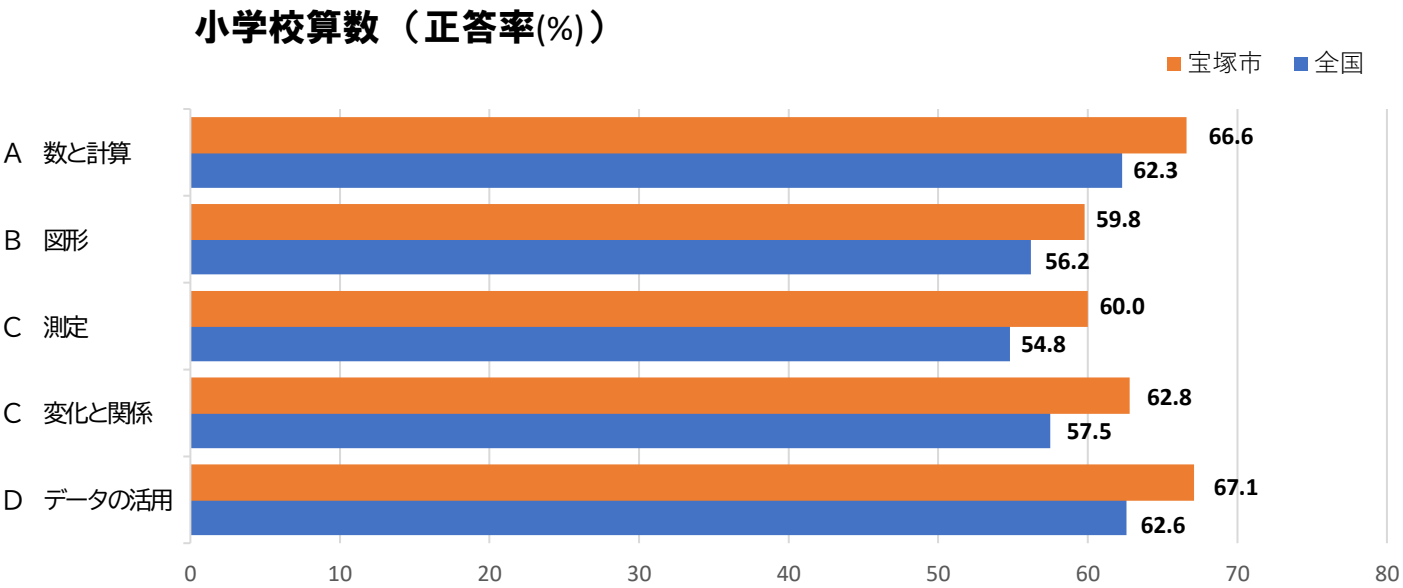
※上の問題はここから引用している。  
多少見づらいと思いますのでこのリンクから元ページを参照してください。

[https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang\\_idea\\_03.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang_idea_03.pdf)



4-2 教科に関する調査結果より（小学校算数）

(1) 教科の調査結果に関する学習指導要領の内容別正答率（％）



(2) 算数の児童質問調査結果に関する興味・関心や授業の理解度（％）

質問項目	小学6年生	
	宝塚市	全国
算数の勉強は得意ですか	59.6	60.3
算数の勉強は好きですか	58.6	57.9
算数の授業の内容はよく分かりますか	81.9	78.3
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.4	91.6
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか	83.5	83.3
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	81.4	82.3
算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	59.4	65.5
小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか	80.6	80.6

(3) 考察

ア 傾向

- 教科の調査結果に関すること
  - ・教科の調査結果の正答率は、学習指導要領全内容で全国平均を大きく上回った。
  - ・特に、「C 測定」「C 変化と関係」では全国平均より大きく上回った。
- 児童質問調査結果に関すること
  - ・授業がよく分かる、算数は将来役に立つ、普段の生活で活用できると感じる割合は高い。
  - ・正答率が高い反面、算数が得意、好きという割合は低く、60%を切る値である。
  - ・授業では、考え方の説明をする活動が59.4%とやや低い。

イ 方向性

小学校算数では、学力は高いが算数が「好き」「得意」と感じる児童が少ないことが課題である。  
今後は、学習指導要領の趣旨に沿って、自分の考えを説明し合う活動や、日常生活と結びついた体験的・探究的な学びを充実させることが重要となる。  
また、算数の楽しさや面白さを実感できる授業を工夫し、児童の自己肯定感や学習意欲を高めることも大切である。




【ピックアップ問題】 ※ここでは教科の調査結果において、正答率が低かった問題（全国比で高い場合もある）を取り上げる。

小学校算数においては、「A 数と計算」に関する「思考・判断・表現」を問う問題を取り上げた。「A 数と計算」は本市正答率は全国平均を大きく上回る数値であったが、該当問題の正答率はかなり低かった。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。


まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$  についてまとめています。



$\frac{2}{5}$  は  $\frac{1}{5}$  の 2 個分、 $\frac{1}{5}$  は  $\frac{1}{5}$  の 1 個分です。  
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$  の計算は、 $\frac{1}{5}$  をもとにすると、 $2 + 1$  を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$  は、もとにする数を  $\frac{1}{5}$  にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$  について考えています。



$\frac{3}{4}$  は  $\frac{1}{4}$  の 3 個分、 $\frac{2}{3}$  は  $\frac{1}{3}$  の 2 個分です。  
もとにする数が  $\frac{1}{4}$  と  $\frac{1}{3}$  でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$  についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$  はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$  はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

設問(2)  
趣旨

分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

- 学習指導要領における領域・内容
- 〔第5学年〕 A 数と計算
- (5) 分数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 異分母の分数の加法及び減法の計算ができること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えること。

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
3 (2)	3 / 4 + 2 / 3 について、共通する単位分数と、3 / 4 と 2 / 3 が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	28.9	0.3	0.6	4.8	1.3	24.3	4.1		22.1	13.6
		24.4	0.3	0.6	8.1	0.9	25.1	4.9		23.0	14.7
		23.0	0.3	0.5	8.1	1.0	28.2	4.4		22.8	15.7

市  
県  
国

(正答の条件) 次の①、②、③の全てを書いている。 ① $3/4$ と $2/3$ に共通する単位分数が、 $1/12$ であることを表す数や言葉（分母が 12 の倍数の単位分数を含む） ② $3/4$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉 ③ $2/3$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉		
1	◎	①、②、③の全てを書いているもの
2		②、③を書いているもの
3		①、②を書いているもの ①、③を書いているもの
4		①を書いているもの
5		②を書いているもの ③を書いているもの
6		通分について書いているもの
7		$3/4$ は $1/4$ の 3 個分であることと、 $2/3$ は $1/3$ の 2 個分であることの両方、又はどちらか一方を書いているもの
9 9		上記以外の解答
0		無解答

解答類型 4 について、このように解答した児童は、共通する単位分数が  $1/12$  であることは 記述できているが、 $3/4$  と  $2/3$  がそれぞれ共通する単位分数の幾つ分かは記述できていない。

解答類型 6 の中の、具体的な例としては、以下のようなものがある。(例)  $3/4 + 2/3 = 9/12 + 8/12 = 17/12$  このように解答した児童は、通分について記述しているが、共通する単位分数が  $1/12$  であることと、 $3/4$  と  $2/3$  がそれぞれ共通する単位分数の幾つ分かは記述できていない。

解答類型 99 の中の、具体的な例としては、以下のようなものがある。(例)  $9/12$  は  $3/4$  の 3 個分。  $8/12$  は  $2/3$  の 4 個分。このように解答した児童は、通分する際に分母と分子にかけた数を、単位分数の幾つ分 かと誤って捉えていると考えられる。

詳細へのリンク・2次元コード

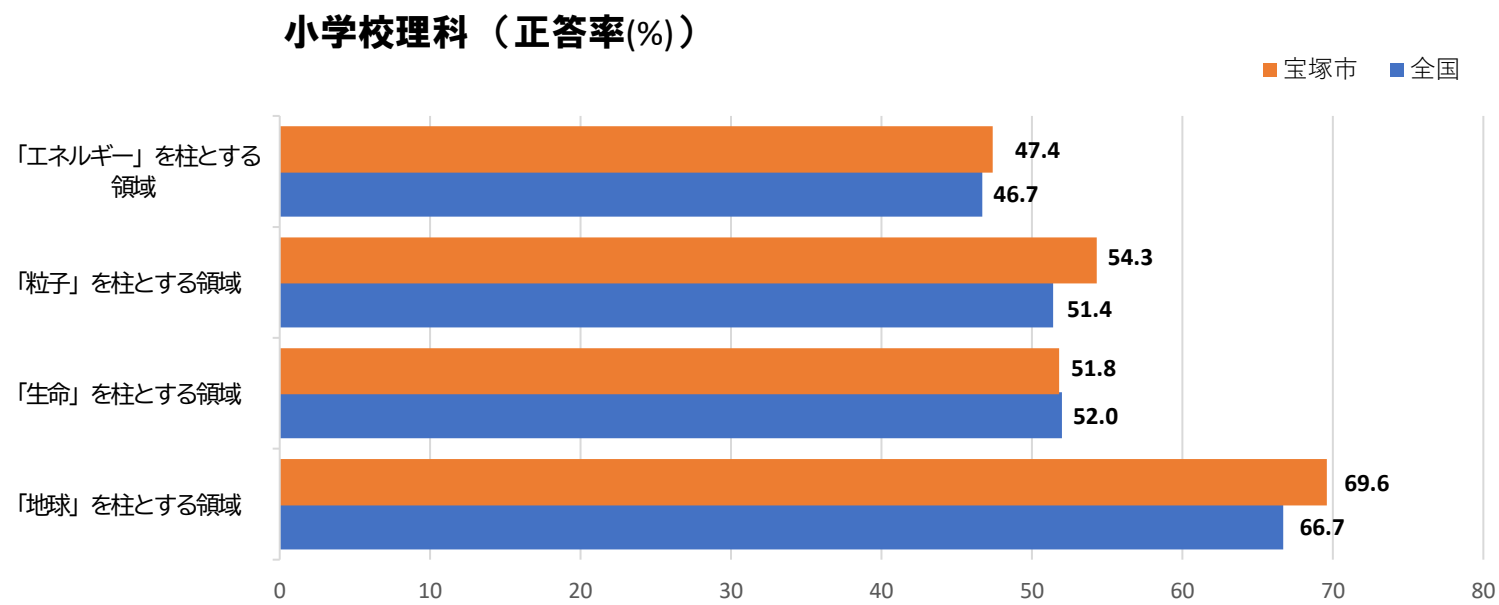
※上の問題はここから引用している。  
多少見づらいと思いますのでこのリンクから元ページを参照してください。

[https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath\\_idea\\_03.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath_idea_03.pdf)



4-3 教科に関する調査結果より（小学校理科）

(1) 教科の調査結果に関する学習指導要領の内容別正答率（％）



(2) 理科の児童質問調査結果に関する興味・関心や授業の理解度（％）

質問項目	小学6年生	
	宝塚市	全国
理科の勉強は得意ですか	78.0	78.4
理科の勉強は好きですか	80.3	80.1
理科の授業の内容はよく分かりますか	90.5	88.9
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	81.6	79.9
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	30.0	30.0
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか	61.4	63.2
自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか	66.0	68.9
理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか	93.6	92.4
理科の授業では、問題に対して答えがどのようなになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか	87.1	85.7
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	88.2	88.4
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	71.4	76.0

(3) 考察

ア 傾向

- 教科の調査結果に関すること
  - ・ 学習指導要領の区分・領域では、「地球」に関する正答率の割合が高かった。
  - ・ 一方で、「エネルギー」に関する正答率が低く、50%を切る値であった。
- 児童質問調査結果に関すること
  - ・ 理科の勉強が得意、好きと感じる割合は高い。
  - ・ 授業内容の理解度は高く、全国平均をやや上回る。
  - ・ 観察や実験をよく行っていると感じる割合はかなり高く、実践的な学びが定着している。
  - ・ 仮説を立てたり、結果から考察する力の割合は高い。
  - ・ 理科の学びを日常生活で活用したり、疑問や問題を見つける力が全国平均よりやや低い。
  - ・ 観察や実験の進め方・考え方を「振り返る」児童が7割程度で、全国平均よりやや低い。

イ 方向性

小学校理科では、児童の興味・関心や理解度が全国水準にあり、観察や実験を重視した実践的な学びが定着している。

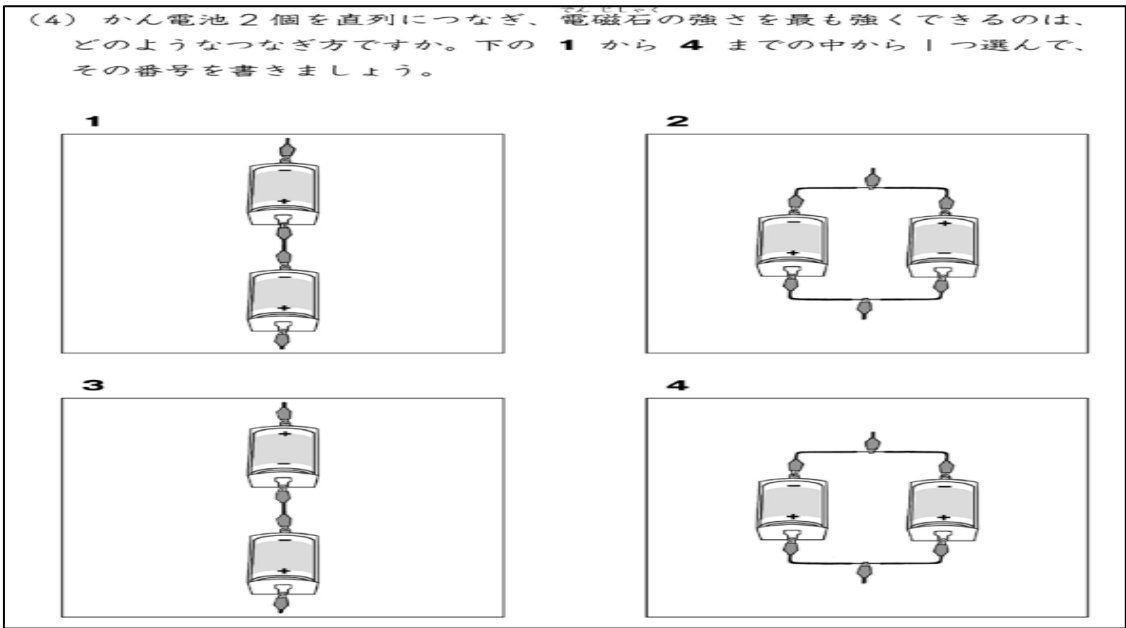
今後は、学習指導要領に基づき、「主体的・対話的で深い学び」を一層推進し、児童が自ら疑問を持ち、学びを日常生活や将来に活かす力を目指した授業の展開が求められる。

また、学習の振り返り活動や探究的な学習を充実させることで、科学的思考力や表現力を高めることも重要である。



【ピックアップ問題】 ※ここでは教科の調査結果において、正答率が低かった問題（全国比で高い場合もある）を取り上げる。

小学校理科においては、「エネルギー」「粒子」を柱とする領域より乾電池のつなぎ方の問題を取り上げた。この問題は知識を問う問題で、本市の正答率は49.1%と全国平均値を大きく下回る結果となった。



設問 (4)

趣旨

乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる。

■学習指導要領における区分・内容

〔第 4 学年〕 A 物質・エネルギー

(3) 電流の働きについて、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子に着目して、それらを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わることを。

■枠組み（視点）

知識

問題番号	問題の概要	解答類型									
		①	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
2 (4)	乾電池 2 個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	49.1	32.6	9.3	8.1					0.1	0.9
		53.8	27.4	9.0	8.8					0.2	0.8
		55.1	25.6	9.0	9.4					0.1	0.8
1	◎	1 と解答しているもの									
2		2 と解答しているもの									
3		3 と解答しているもの									
4		4 と解答しているもの									
9 9		上記以外の解答									
0		無解答									

本設問の正答率は 55.1%である。このように解答した児童は、乾電池の直列つなぎの特徴を理解していると考えられる。解答類型 2 の反応率は 25.6%である。このように解答した児童は、並列つなぎの特徴と図を関係付けて捉えることに課題があると考えられる。

解答類型 4 の反応率は 9.4%である。このように解答した児童は、並列つなぎの正しいつなぎ方は理解しているが、直列つなぎと並列つなぎの特徴と図を関係付けて捉えることに課題があると考えられる。

平成 27 年度 1 (5)イでは、本設問と同様の内容を出題し、「乾電池の正しいつなぎ方やその特徴を捉えること」に課題があると指摘している（正答率 66.3%）。本設問では、正答率が 55.1%であることから、前回に引き続き課題があると考えられる。

詳細へのリンク・2次元コード

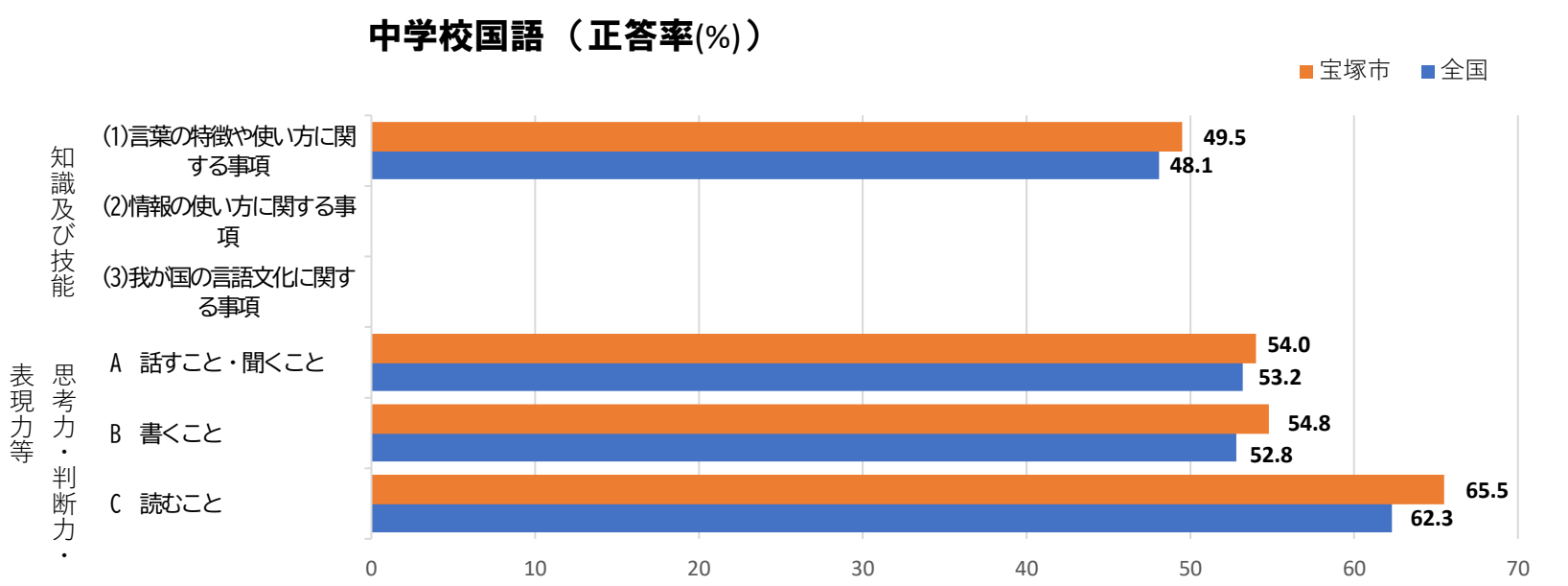
※上の問題はここから引用している。  
多少見づらいと思いますのでこのリンクから元ページを参照してください。

[https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25psci\\_idea\\_02.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25psci_idea_02.pdf)



4-4 教科に関する調査結果より（中学校国語）

(1) 教科の調査結果に関する学習指導要領の内容別正答率（％）



(2) 国語の生徒質問調査結果に関する興味・関心や授業の理解度（％）

質問項目	中学3年生	
	宝塚市	全国
国語の勉強は得意ですか	43.4	51.4
国語の勉強は好きですか	51.8	57.9
国語の授業の内容はよく分かりますか	70.3	77.0
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	83.8	88.3
国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか	63.1	72.9
国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか	58.5	70.2
国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか	66.5	74.0
国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか	62.5	73.6

(3) 考察

ア 傾向

- 教科の調査結果に関すること
  - ・すべての学習指導要領の内容で、全国の平均を上回った。
  - ・特に「読むこと」についての割合が高い。
  - ・一方で記述式で解答する問題については、全国平均を上回るもののその割合は低い。
- 生徒質問調査結果に関すること
  - ・小学校と同様で、国語が将来役立つと思っている割合は高い。
  - ・全ての項目で全国平均より低い。
  - ・国語が得意、好きと感じる割合は半数にとどまる。
  - ・教師のサポートがあると感じる生徒の割合が全国平均より低い。

イ 方向性

中学校国語では、すべての領域で全国平均を上回り、特に「読むこと」で高い成果をあげている。一方で、記述式問題の正答率は低めで、国語が得意・好きだと感じる生徒も半数にとどまっている。また、教師のサポートが少ないと感じている生徒が多いことも課題である。今後は、学習指導要領に基づき、記述力や表現力を伸ばす活動を充実させること、一人ひとりへの丁寧な支援を強化することが求められる。また、国語の楽しさや役立ちを実感できる授業づくりを進めていく必要がある。

【ピックアップ問題】 ※ここでは教科の調査結果において、正答率が低かった問題（全国比で高い場合もある）を取り上げる。

中学校国語においては、「思考力・判断力・表現力等」に関する「C 読むこと」を取り上げた。この問題の正答率は全国平均より高かったが、正答率18.5%と極めて低かった。なお、当問題は記述式であり、記述にて解答する問題の正答率は総じて低かった。

四  
「一 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

設問四

趣旨

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

《精査・解釈》

問題番号	問題の概要	解答類型									
		①	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
3 四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとどのように考えた理由を書く	18.5	0.0	40.0						21.2	20.3
		14.9	0.1	33.9						19.8	31.4
		17.1	0.1	34.2						20.5	28.1

(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① どのような効果があるかを書いている。 ② ①のように考えた理由を、「破線囲みの部分のような『あとに続く話』が、『一 榎木の実』にはあるが、『二 釣の話』にはない」という展開を踏まえて書いている。 ③ ②について、物語の内容を適切に取り上げて書いている。		
1	◎	条件①、②、③を満たして解答しているもの
2		条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの
3		条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの
9 9		上記以外の解答
0		無解答

令和4年度【小学校】国語2二（正答率68.5%）において、「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」に課題が見られた。また、令和5年度【中学校】国語4三（正答率50.5%）において、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」に課題が見られた。これらに関連して、本問では、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることを求めたところ、正答率は17.1%であった。今回の結果から、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることについては、引き続き課題があると考えられる。

詳細へのリンク・2次元コード

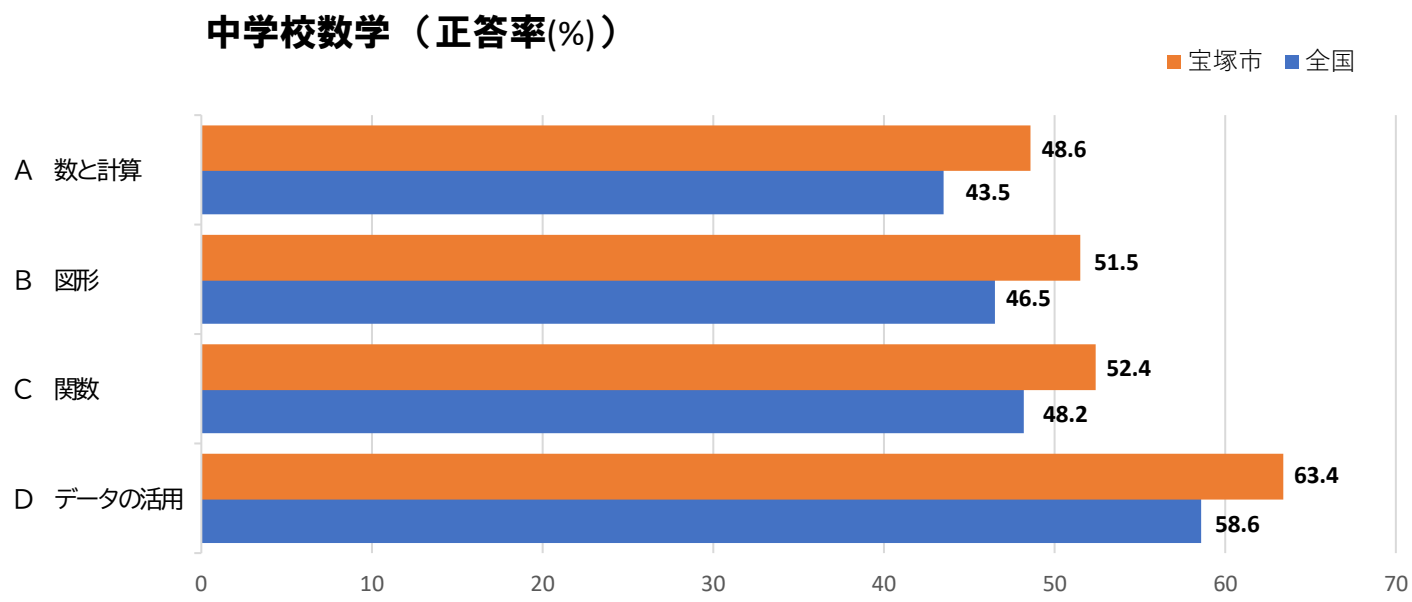
※上の問題はここから引用している。  
多少見づらいと思いますのでこのリンクから元ページを参照してください。

[https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang\\_idea\\_03.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang_idea_03.pdf)



4-5 教科に関する調査結果より（中学校数学）

(1) 教科の調査結果に関する学習指導要領の内容別正答率（％）



(2) 数学の生徒質問調査結果に関する興味・関心や授業の理解度（％）

質問項目	中学３年生	
	宝塚市	全国
数学の勉強は得意ですか	47.5	46.0
数学の勉強は好きですか	52.4	53.8
数学の授業の内容はよく分かりますか	72.3	70.3
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	74.4	75.2
数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか	53.6	57.9
数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	74.0	76.2
数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	45.3	58.6
文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか	64.9	67.1

(3) 考察

ア 傾向

- 教科の調査結果に関すること
  - ・教科の調査結果についての正答率は、全国平均を上回った。
  - ・各学習指導要領の領域についても正答率の割合は高く、「D データの活用」の正答率の割合が高かった。
- 生徒質問調査結果に関すること
  - ・授業がよく分かる、数学は将来役に立つと感じる割合は高い。
  - ・解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えるなど粘り強さの割合も高い。
  - ・正答率は高い反面、数学が得意という感じる割合は低く、50%を切る。
  - ・授業で、考え方の説明をする活動は全国平均をかなり下回った。

イ 方向性

中学校学習指導要領解説数学編では、数学的活動を通して粘り強く考える力や、生活や学習に数学を生かそうとする態度を育てることが重視されている。そのためには、学力の高さを維持しつつ、数学の楽しさや面白さを実感できる授業が重要である。

一方で、数学が「得意」と感じる生徒は少なく、意欲面に課題がある。

今後は、自分の考えを説明したり、友達と協働して考える活動を増やし、数学のよさや実用性を体験できる学びを充実させることが求められる。



【ピックアップ問題】 ※ここでは教科の調査結果において、正答率が低かった問題（全国比で高い場合もある）を取り上げる。

中学校数学においては、「A 数と計算」に関する「知識・技能」の問題を取り上げた。「A 数と計算」は正答率は全国平均は上回ったが50%を切っており、該当問題の正答率は28.4%と全国平均値を大きく下回った。

1 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

## 出題の趣旨

事象を数や式を用いて考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。

- ・事象の特徴を的確に捉えること
- ・素数の意味を理解していること

事象を数や式を用いて考察する場面では、数や式の特徴を的確に捉えることが大切である。本問は、素数の意味を理解しているかどうかをみる問題である。素数について理解することは、約数、倍数などの整数の性質を捉え直す際などに必要であることから出題した。

## ■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 A 数と式

(1) 正の数と負の数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 正の数と負の数の必要性和意味を理解すること。

問題番号	問題の概要	解答類型									
		①	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
1	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	28.4	4.0	1.7	24.7	12.5	8.1	11.5		8.7	0.4
		30.5	2.8	2.6	20.6	10.7	8.6	11.8		11.7	0.7
		31.8	2.7	2.7	19.4	10.1	8.7	12.1		12.0	0.7

1	◎	2、3、5、7 と解答しているもの
2		3、5、7 と解答しているもの
3		2、3、5、7、9 と解答しているもの
4		1、2、3、5、7 と解答しているもの
5		1、3、5、7 と解答しているもの
6		1、3、5、7、9 と解答しているもの
7		上記4～6以外で、1を含んで解答しているもの
9 9		上記以外の解答
0		無解答

正答率は 31.8% であり、素数の意味の理解に課題がある。

解答類型4～7の反応率の合計は 50.3% であり、1が素数に含まれると捉えている生徒がいると考えられる。

解答類型4の中には、素数は2、3、5、7に加えて、1も含まれると捉えている生徒がいると考えられる。

解答類型5の中には、1から9までの奇数のうち、9以外の数を素数であると捉えている生徒がいると考えられる。

解答類型7の中には、「1、2、3、5、7、9」という解答がみられた。この中には、1から9までの自然数のうち、2と奇数が素数であると捉えている生徒がいると考えられる。

解答類型99の中には、「3、6、9」という解答がみられた。この中には、素数を3の倍数であると捉えている生徒がいると考えられる。

詳細へのリンク・2次元コード

※上の問題はここから引用している。  
多少見づらいと思いますのでこのリンクから元ページを参照してください。

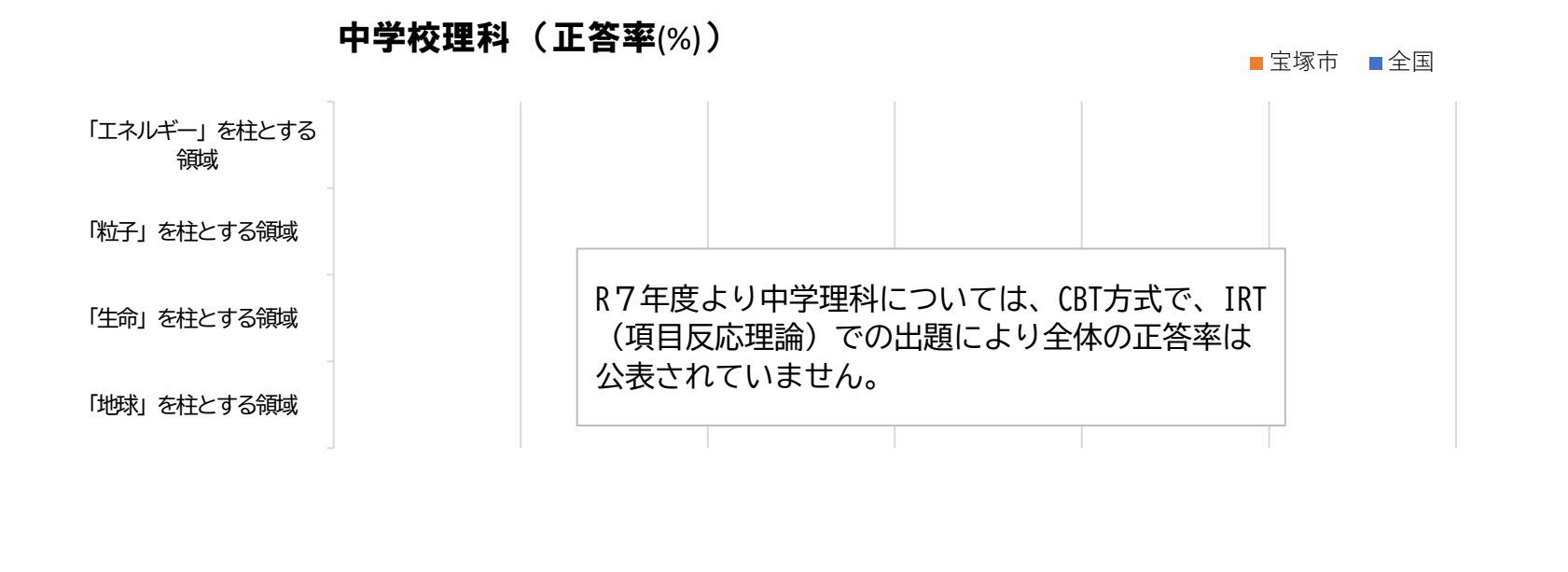
[https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25math\\_idea\\_01.pdf](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25math_idea_01.pdf)





4-6 教科に関する調査結果より（中学校理科）

(1) 教科の調査結果に関する学習指導要領の内容別正答率（％）



(2) 理科の生徒質問調査結果に関する興味・関心や授業の理解度（％）

質問項目	中学3年生	
	宝塚市	全国
理科の勉強は得意ですか	43.4	50.7
理科の勉強は好きですか	54.7	63.8
理科の授業の内容はよく分かりますか	66.3	71.4
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	56.9	63.4
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	20.2	21.7
理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか	49.6	54.7
理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか	41.9	50.7
自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか	48.2	56.2
理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか	75.3	85.8
理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか	63.4	70.2
理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか	57.2	68.4

(3) 考察

ア 傾向

- 生徒質問調査結果に関すること
  - ・ 理科が得意と感じている生徒は、全国平均を下回り、その割合も50％を切っている。
  - ・ 理科や科学技術の職業を目指す生徒の割合は全国と大きく変わらず、全体として低い。
  - ・ 理科の学びを生活で活用している、日常や授業で理科に関する疑問を持つ生徒の割合が全国より低い。
  - ・ 観察や実験の頻度、仮説を立てて考える、結果を考察する、振り返るといった主体的・探究的な学びの活動が全国平均より低い。

イ 方向性

中学校理科では、興味や自信、主体的な学習活動が全国平均より低い傾向がある。  
今後は、学習指導要領の趣旨である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の育成を踏まえ、探究的な学びや日常生活・社会との関連付け、振り返り活動の充実が重要である。  
授業ではICT機器を活用するなどした協働的・探究的な学習を積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びを意図的に取り入れることで、理科の有用性を実感し、生徒の資質・能力の伸長につなぐことが必要である。

※CBT方式により、同じ問題を解答していないものもあるためピックアップ問題はありません。

## 5. 児童生徒質問調査結果より

### (1) 各領域ごとの結果概要

児童生徒質問調査は、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。

小・中学校ともに8つの領域に分類されており、ここでは、それぞれの領域の国比の数値について、最も高かった項目（1点）と最も低かった項目（1～2点）を取り上げました。なお、「各教科に対する興味・関心や授業の理解度」の領域については「4. 教科に関する調査結果」に掲載しています。

※下表のについて宝塚市と全国の数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合(%)を示し、

国比の数値については、本市と全国の差です。

※国と比較してよかった項目には「○」を、課題のある項目には「▲」を枠外に付しています。

※記載順は、児童生徒質問調査に準じています。

#### 基本的な生活習慣

質問項目	小学6年生			中学3年生		
	宝塚市	全国	国比	宝塚市	全国	国比
○ 朝食を毎日食べていますか	93.6	93.7	-0.1	91.9	91.2	0.7
▲ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	82.0	81.9	0.1	77.0	81.0	-4.0

#### 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感など

質問項目	小学6年生			中学3年生		
	宝塚市	全国	国比	宝塚市	全国	国比
▲ 将来の夢や目標を持っていますか	80.2	83.1	-2.9	64.6	67.5	-2.9
○ 学校に行くのは楽しいと思いますか	90.7	86.5	4.2	88.5	86.1	2.4

#### 学習習慣、学習環境など

質問項目	小学6年生			中学3年生		
	宝塚市	全国	国比	宝塚市	全国	国比
▲ 分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	79.9	81.7	-1.8	73.3	77.5	-4.2
○ 読書は好きですか	77.6	69.7	7.9	57.8	61.6	-3.8

#### 地域や社会に関わる活動の状況など

質問項目	小学6年生			中学3年生		
	宝塚市	全国	国比	宝塚市	全国	国比
○ これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか	80.9	80.6	0.3	76.1	75.7	0.4
▲ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	80.5	81.3	-0.8	71.0	75.3	-4.3

## ICTを活用した学習状況

質問項目	小学6年生			中学3年生		
	宝塚市	全国	国比	宝塚市	全国	国比
▲ 今までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	67.5	71.7	-4.2	61.0	76.5	-15.5
○ あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか	89.2	89.8	-0.6	90.9	91.5	-0.6
▲ あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか	63.6	69.3	-5.7	51.6	63.3	-11.7

## 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質問項目	小学6年生			中学3年生		
	宝塚市	全国	国比	宝塚市	全国	国比
▲ 今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	66.8	68.6	-1.8	56.5	63.0	-6.5
▲ 今までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしなが、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	75.2	77.8	-2.6	59.0	70.6	-11.6
○ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	92.0	91.9	0.1	89.4	91.9	-2.5

## 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳

質問項目	小学6年生			中学3年生		
	宝塚市	全国	国比	宝塚市	全国	国比
▲ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	75.6	82.3	-6.7	67.1	79.5	-12.4
▲ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	77.0	80.8	-3.8	70.0	77.3	-7.3
○ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	87.4	88.0	-0.6	88.3	91.5	-3.2

### (2) 傾向と今後の対策（小学校）

幸福感、規範意識が高く、前向きに学校生活を送っている様子がうかがえる。一方、ICT活用、主体的・対話的で深い学び、学級活動への積極的な取組が課題となっている。

今後も、引き続き、児童が自ら課題を見つけ協働しながら解決する力を養うため、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努める。また、情報活用能力の育成に向け、ICT機器の効果的な活用を充実させるとともに、児童が安心して相談できる体制の整備、地域との連携を深める活動も積極的に取り入れることが重要である。

### (3) 傾向と今後の対策（中学校）

生活習慣、自己肯定感、将来の夢・目標に対する意識がやや低い傾向が見られる。主体的・対話的で深い学び、総合的な学習、学級活動への積極性は小学校と同様に全国平均を下回っており、特に中学校ではICT機器の活用もその傾向が強い。

学習指導要領では、キャリア教育の充実や探究的な学習活動の充実が求められていることから、生徒が自らの進路や将来を考え、主体的に学ぶ機会を増やす必要がある。そのため、授業では、ICT機器を効果的に活用するなど協働的・探究的な学習を積極的に取り入れるとともに、生徒が悩みを相談しやすい環境づくり、地域・社会と連携した体験活動の充実を図り、自己有用感や社会性を育むことが重要である。

自分を大切に 人を大切に  
ふるさと宝塚を大切に作る人づくり

本市では、教育の基本目標である「自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に作る人づくり」を達成するため「第2次宝塚市教育振興基本計画」を令和3年度(2021年度)に策定し、特に重要と考える8つの施策を「重点施策」として設定しています。

※令和7年度内に「第2次宝塚市教育振興基本計画」の後期計画が策定される予定

重点施策

1	幼児期の教育・保育の質を高めます
2	子ども一人ひとりに寄り添った支援を行います
3	「魅力ある授業」「わかる授業」を展開します
4	子どもの健やかなからだづくりを応援します
5	子どもたち・教職員の人権意識を高めます
6	ICT環境を活用した教育を展開します
7	読書活動を推進します
8	学校・家庭・地域の連携を強めます

それぞれの詳しい内容は、「第2次宝塚市教育振興基本計画」

(<https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/1060680/1060699/kyoikuiinkai/1044685/1009232/1029300/1043076.html>)に記載しています。

以上のような取組を通じて、本市の児童生徒の学習と生活を充実させていきます。そのためにも、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが不可欠です。

今後とも本市の教育にご理解とご協力をお願いします。

(参考) 全国学力・学習状況調査の問題や質問の内容は下記 URL にてご覧いただけます。  
国立教育政策研究所 HP 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」  
(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)

